

第26回北海道法人会青年の集い帯広大会経過報告

開催日 平成29年6月23日(金)
開催場所 大会式典・記念講演会 帯広市民文化ホール
懇談会 帯広駅多目的広場「夢の北広場」
参加人数 来賓招待者33名 参加人数359名 一般参加者10名

第26回北海道法人会青年の集いは平成29年6月23日(金)帯広市民文化ホールにおいて全道30法人会青年部会より359名、来賓招待者33名が出席し開催された。

第1部大会式典では玉川青連協会長より「法人会青年部会は、次代を担う子供達へ租税教育を中心とする活動をより一層充実したものにして行かなければなりません。全道各地の更なる青年部会活動が地域の発展に繋がる」と挨拶があった。その後、岡野泰大札幌国税局課税第二部長、梶田敏博十勝総合振興局長、米沢則寿帯広市長、中井千尋道法連会長より祝辞を頂いた。

また、第30回法人会全国青年の集い北海道大会での租税教育活動プレゼンテーションで奨励賞を受賞した函館法人会青年部会「ソゼー博士とゼイキンポリス」、最優秀賞を受賞した鹿屋肝属法人会青年部会(鹿児島県)「一緒に楽しく学ぼう税(ぜい)！」の租税教育活動事例を大会式典内で披露した。

引き続きばんえい競馬振興連絡協議会会長の川田章博氏より「ばんえい競馬にかける思いと将来への期待」と題し記念講演があった。参加者は講演の中で模擬レースを交えながら国内で唯一開催しているばんえい競馬の話に耳を傾けた。

第3部懇談会は帯広駅北多目的広場に会場を移し、十勝の豊富な食材を堪能し、部会員同士の交流を深めた。

第1部 大会式典 14:30~15:50

1. 開 会
2. 開催テーマ映像
「感動の大地、十勝・帯広からの挑戦」
3. 国歌斉唱
4. 式 辞 北海道法人会連合会
青年部会連絡協議会 会長 玉川裕一
5. 来賓紹介
6. 来賓祝辞 札幌国税局 課税第二部長 岡野泰大 様
北海道十勝総合振興局 局長 梶田敏博 様
帯広市長 米沢則寿 様(帯広地方法人会 小島相談役 代読)
北海道法人会連合会会長 中井千尋 様



玉川青連協会長式辞



札幌国税局
岡野課税第二部長祝辞



十勝総合振興局
梶田局長祝辞



道法連中井会長祝辞

7. 祝電披露

8. 平成28年度法人会全国青年の集い北海道大会租税教育活動プレゼンテーション
【ソゼー博士とゼイキンポリス】

奨励賞 函館法人会

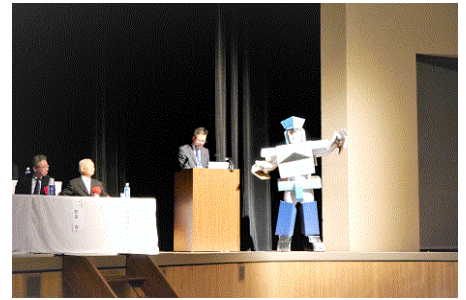
対象 小学生

参加 1,150名

放課後に児童を預かる「学童保育所」での学童保育祭りで、小学生へ税金の大切さを伝えるオリジナルストーリーのステージショーを開催。

・これまでの租税教育活動を振り返り、短時間で、大勢の子供たちに税金の大切さを伝えるにはインパクトを与えることが必要との結論に至る。

・子供たちの親近感がわくオリジナルキャラクター「ソゼー博士とゼイキンポリス」を創出。



函館地方法人会
租税教育活動事例発表

【一緒に楽しく学ぼう税（ぜい）！】

最優秀賞 熊本県連 鹿屋肝属法人会(鹿児島県)

対象 小中学生

参加 800名

「遊びながら、税を通じた家族の会話」をテーマに「鹿屋市秋祭り歩行者天国」において、「税」一色のイベントを開催。

・宝の地図をもとに、税に関する問題を探し出し、回答して回る「宝探しだ税」や子供たちの目線で、消費税の使い道を考え投票する「消費税の使い道を子供たちに託してみよう税」など

・「税金の大切さ」をテーマにしたヒーローショーを編集したDVDを作成し、48校に配付。



鹿屋肝属法人会(熊本県連)
租税教育活動事例発表

9. 次回開催地挨拶 第27回北海道法人会青年の集い
釧路地方法人会青年部会

10. 大会宣言 第26回北海道法人会青年の集い
帯広大会実行委員長 朴 昌人

11. 閉会



次回開催地挨拶
釧路地方法人会青年部会

第2部 記念講演会 16:00～17:30

テーマ 「ばんえい競馬にかける思いと将来への希望」

講師 ばんえい競馬振興連絡協議会 会長 川田章博 氏



記念講演会
川田講師



模擬レース

第3部 懇談会 18:00～19:30

1. 開会挨拶 (公社)帯広地方法人会 青年部会 部会長 小野寺慎吾
2. 来賓挨拶 (公財)全国法人会総連合 青年部会連絡協議会 会長 中村一朗 様
3. 祝 杯 帯広税務署 署長 武田 亮 様
4. アトラクション 第31回法人会全国青年の集い高知大会PR
抽選会
5. 閉会挨拶 (公社)十勝池田地方法人会 青年部会 部会長 遊佐俊治



帯広地方法人会
小野寺部会長懇談会挨拶



全国法人会総連合
中村青連協会長挨拶



高知大会PR



懇談会全景



抽選会



十勝池田地方法人会
遊佐部会長閉会挨拶

第26回北海道法人会青年の集い帯広大会 大会宣言文

「感動の大地、十勝・帯広からの挑戦」
～先人の知恵に学び、新しきを知る

平成28年9月、第30回法人会全国青年の集い北海道大会が開催されました。「Be Ambitious! Do Action!」をスローガンに掲げ、全国から集った部会員が、法人会青年部会として崇高な志を持って租税教育活動を実施していくことを、旭川の地で宣言致しました。

この高い志は、全国441単位会で租税教育活動がほぼ達成された現状において、より一層の推進を図るための原動力となり、更に税の「使い途」について提言をしているところであります。



大会宣言
朴大会実行委員長

本大会の主管地である帯広市は、明治16年に依田勉三の率いる「晩成社」一行27人が、下帯広村に入植したところから本格的な開拓が始まりました。彼らは度重なる冷害や害虫などの襲来に遭い、苦難の開墾生活を送る中で、畜産、馬鈴薯澱粉の研究、乳製品製造など多様な事業に挑戦し続けました。彼らが手掛けた事業は、その後の十勝・帯広に根付く諸産業の源流として称えられています。勉三は最後に「晩成社には何も残らん。しかし、十勝野には…」と述懐し、波乱万丈の生涯を終えたとされていますが、この言葉の先に、勉三が描いた未来と、後世に託した思いが伺い知れる意味深い言葉として、今も語り継がれております。

百数十年の時を経て、今我々は、先人たちの残した遺産とその歴史に触れる事で、夢に人生を捧げた不屈の精神と、豊かに実る「感動の大地」を目指して挑んだ「知恵」を学び知ることができます。彼らが追い求めたもの、彼らの経験したことは、今も我々の中に息づいており、今後後世へと引き継いでいかなければなりません。

「感動の大地、十勝・帯広からの挑戦」～先人の知恵に学び、新しきを知る

各地に伝わる歴史を思い返し、各地域に根差した青年部会活動への反映を誓い、十勝・帯広より宣言致します。

平成29年6月23日
第26回北海道法人会青年の集い帯広大会